

## 成田市公設地方卸売市場運営審議会会議録

### 1 開催日時

平成30年7月31日（火）13時30分から14時30分まで

### 2 開催場所

成田市飯仲42番地2

成田市公設地方卸売市場 管理事務所2階会議室

### 3 出席者

（委員）

岩澤貞男委員、篠原圭助委員、小泉嘉美委員、

廣野安弘委員、小宮山四郎委員、原野義史委員、

伊藤竹夫委員、神谷隆一委員、柿澤利行委員、

池田直記委員、林隆浩委員、日置久恵委員、磯野徳子委員

（事務局）

小泉一成市長、都祭幸也部長、五十嵐昭夫参事、金光公太場長、

郡司芳己係長、伊藤敬之主任主事

### 4 議題

（1）会長及び副会長の選任について

（2）新市場整備事業の経過報告

（3）その他

### 5 議事（要旨）

（1）委員の互選により、会長に岩澤貞夫委員、副会長に篠原圭助委員を選任した。

（2）市場再整備及び輸出拠点化推進事業の経過について、事務局より以下の通り報告した。

#### ① 施設整備に関すること

文化財調査の現場調査が完了し、造成工事に着手している。調整池工事は業者選定中であり、9月議会にて工事契約議案として上程予定。

今後、本体棟・付属棟・外構の3種類の工事を発注予定。

水産仲卸売場について設計上の予定小間数を大きく上回る使用希望があり、仲卸業者との個別ヒアリングの上で小間数の精査を行っているが、結果次第では仲卸売場のレイアウト等設計見直しも必要となる。

また、高機能物流棟への参画を希望する事業者との個別対話において、精査すべき提案があり、改めて検討・調整の時間が必要となっている。

これらの状況を踏まえたスケジュールとして、本体工事の着手は本年末を見込んでおり、付属棟・外構についてもそれに合わせた整備スケジュールとなる。

青果・水産の卸・仲卸業者と高機能物流棟事業者については、9月末までに公募による事業者選定を見込んでいる。特に冷凍冷蔵庫事業者については、必要な物量や利用方法を整理した上で公募を行い、年度内に事業者を決定したい。

集客施設棟については、10月上旬に募集要項（案）を公表し、意見・質問を募り、正式な募集要項として取りまとめた上で募集を開始し、3月下旬には選定結果を公表予定。

関連棟については、現在の関連食品棟に出店している事業者の内、新市場への移転を希望する事業者の出店先として、民間事業者が新規関連棟を整備することの協議を開始している。

## ② 場内事業者との情報共有について

6月19日に場内事業者を対象に新市場に関する説明会を開催し、高機能物流棟事業者に関することを説明したほか、移転に向けた場内事業者個別ヒアリングの実施について説明した。高機能物流棟の事業者募集に関して、「各機能や規模、賃料、仲卸業者の利用は可能であるか」、「ワンストップ輸出エリアの機能について教」等の質疑があり、移転に向けた個別ヒアリングについては、「水産仲卸売場の配置や機能について」、「希望する小間数が不足する場合の対応」等の質疑があった。

6月26日に青果部仲卸業者を対象とした個別ヒアリングを実施し、新市場における使用料について、また、10月に成田市場として出展を予定している日本の食品輸出EXPOへの参加について意見を伺った。

使用料については、「ある程度の増額は仕方がない」、「値上げについては売上を伸ばすこと等で対応できる」等の意見があり、日本の食品輸出EXPOへの参加については、「関心があるが、すぐに輸出に取り組むことは難しい」、「展示会で海外の需要等を知ること、将来的には輸出への取り組みについての可能性はある」等の意見があった。

6月28日から7月11日にかけて、移転を希望する仲卸業者を対象に、使用を希望する小間数とその根拠、平成28年度以降の総売上、総仕入、卸業者からの仕入れの状況など、また、開場5年後の売り上げ目標、従業員の増員、輸出事業の展開等について個別ヒアリングを実施している。

ヒアリングを行った業者からは、「現市場での顧客の多くが西側方面であるため、移転による配達コストが増加する」、「客離れや、従業員の確保等の不安がある」等の意見がある一方で、「輸出事業の拡大の可能性はある」、「新たな顧客獲得のため営業を展開したい」、「使用料の増額はあったとしても売場面積を十分に確保したい」等、新市場への期待や売り上げの増加に向けた前向きな意見も多数いただいた。

## (3) 委員からの発言

・再整備事業は計画通りに進んでいるのか？

→小間数について等、計画外で調整が必要な期間はあるが、2020年の開場という目標に向けて調整していく。

・集客棟は本体棟と同時開場では無いのか？

→今年度中に事業者を決定する予定であるが、状況によっては同時開場は難し

いことも考えられる。

- ・開設者からヒアリングを受けた。条件次第で移転することとしているが、1平方メートルあたり1,400円という成田市場の施設使用料は、他市場と比較して高いようである。再考願いたい。
- 現在、青果部仲卸売場の施設使用料については、(一部の業者を除き)仲卸業者自らが施した売場施設を寄付した場合の特例により、1平方メートルあたり600円としているが、新市場では原則の1,400円をベースとし、2年間の据え置き期間と5年目までの段階的引き上げ措置を設けることとしている。600円から1,400円という大幅な負担増について考慮して欲しいという意見も頂いているため、改めて検討し協議させていただきたい。
  
- ・輸出とインバウンドは間違いなく伸びる。市場をどう成長させるかが重要である。
  
- ・特別委員会と仲卸業者の意見交換会については本会の資料に反映されていないのか？
- 今回の資料は市場の行政側のまとめとなるため、議会での内容については取り上げていない。
  
- ・最近になって突然、駐車場料金負担の話があったが、従業員数が多いほど負担が大きくなり、これまでと同じビジネスでは先行きが厳しくなるという不安がある。ワンストップ輸出機能に期待する声もあるようだが、そもそも実現可能なのか何も見えてこない。本会の資料に記載されている意見とは真逆の不安の声ばかりであることをわかっていたいただきたい。空港に隣接する特色を活かした市場に期待する意見にしても、渋滞問題が解決していない。これらの解決策が示されないまま、このスケジュールで進めていくというのは、あまりにも急ぎ過ぎではないか。現状は新たな負担等に対する不安が大きく、皆が前向きに移転に向かっているわけではない。
- 県内の各市場の駐車場は有料であり、受益者負担の考え方からも新市場では有料とさせていただく方針である。様々な意見があるようなので、県内の動向を踏まえ、有料とする駐車場の種別や金額については、次回の説明会までに精査させていただきたい。ワンストップ輸出拠点については以前行った実証実験では成功しており、制度上は実現可能である。商工会議所や県とも調整を進めており、前向きな回答も得られているところである。渋滞問題については、成田小見川鹿島港線の4車線化の要望活動を進めているところであり、市場側の既存の道路の拡幅も予定している。移転に向けた不安の声や、については、理解を得られるよう個別の協議を進めていきたい。スケジュール上、先述の小間数調整の問題が生じているが、どこまで対応可能か、設計を含めて調整していきたい。

- ・ 関連食品棟事業者は、新市場開場時に、現市場の関連食品棟は営業を継続するかどうかについて、成田総合流通センターから示されていないため、移転の判断に困っており、アンケートによると移転反対の割合が大きい。このままでは現市場と新市場それぞれに関連食品棟が存在するという異常事態になりかねないため、現市場での営業継続の可否について、何らかの形で関連食品棟事業者に示して欲しい。
- 関連食品棟については、市と成田総合流通センターの間で、移転を希望する業者の入居先として整備することを前提に様々な協議を進めているところである。
- (関連食品棟管理者の立場から) 現市場の関連食品棟については、建物は残存する可能性があるが、跡地利用上、市場の機能として残るものは無くなるため、市場で仕事をするために残る理由は無くなることになる。
  
- ・ (公設卸売市場部分の) 跡地利用については？
- 現在は白紙の状態である。

#### (4) その他

- ・ 先進地視察について
- 平成 28 年度に指定管理者制度に移行した福島県会津若松市場への視察を予定している。詳細が決まり次第案内させていただく。

## 6 傍聴

傍聴者 6 名

## 7 次回開催日時 (予定)

未定